

社会資本総合整備計画（市街地整備） 事後評価書

平成 30年 3 月

計画の名称	1 人々が安心して集い、地域の歴史・文化を感じながら楽しい時間を過ごせる地域づくり									
計画の期間	平成25年度 ～ 平成29年度 (5年間)					交付対象	知立市			
計画の目標										
・人々に安らぎを与える公園や歴史が薫る回遊性の高い道路空間の創出による、交流豊かなまちづくり。 ・自動車交通の円滑性と歩行者の安全性が確保され、全ての人が安全に安心して生活できる交通環境づくり。										
計画の成果目標（定量的指標）										
・観光ガイドツアーの参加者数の1,370人から1,490人への増加を目指す。 ・地区内の1人当たりの公園面積の3.1㎡/人から3.3㎡/人への増加を目指す。 ・交通事故件数の109件/年から100件/年への減少を目指す。										
定量的指標の定義及び算定式							定量的指標の現況値及び目標値			備考
							当初現況値 (H23当初)	中間目標値 (H27末)	最終目標値 (H29末)	
① 観光ガイドツアーの参加者数（人）							1,370	—	1,490	
② 地区内の1人当たりの公園面積（㎡/人）							3.1	—	3.3	
③ 交通事故件数（件/年）							109	—	100	
全体事業費	合計 (A+B+C)	578百万円	A	567百万円 (うち提案事業5.6百万円)	B	0百万円	C	11百万円	効果促進事業費の割合 C／(A+B+C)	2.87%

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
事後評価の検討にあたり、事業担当課のみならず、庁内の横断的な組織によって、総合的かつ専門的な見地から検討を行うため、庁内の関係部署による「社会資本総合整備計画事業評価庁内検討会議」を組織した（1回開催：平成29年10月）。 また、事後評価等が適切に遂行されたことを中立・公平な立場で確認していただくとともに、意見を求めることを目的として、有識者や地元関係者により「社会資本総合整備計画事業評価委員会」を組織した（2回開催：平成29年9月、12月）。	平成29年度に事後評価を実施、平成30年度に確定値によってフォローアップ調査を実施
	公表の方法
	知立市都市整備部まちづくり課の窓口で閲覧、知立市のホームページで公表

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業

A1 基幹事業																		
番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	道路 種別	省略 工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考	
											H25	H26	H27	H28	H29			
1-A-1	都市再生 整備計画	一般	知立市	直接	知立市			八橋周辺地区都市再生整備計画事業	道路、公園 540ha	知立市						567		
												合計					567	

B 関連社会資本整備事業

番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
										H25	H26	H27	H28	H29		
合計															0	

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考

C	效果促進事業
---	--------

[illegible]

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考
1-C-1	知立市には地区内に位置するかきつばた園を中心に開催される「かきつばた祭り」及び「知立まつり」と「花しょうぶまつり」が代表的な祭りとして開催されており、「知立公園」は「知立まつり」と「花しょうぶまつり」の開催会場となっている。知立公園は、八橋周辺地区と旧東海道で結ばれていることから、知立公園の利便性を向上させることで祭りの来訪者が地区内の観光スポットへ立ち寄ることが考えるため、八橋周辺地区の交流促進に寄与すると考えられる。	

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況						
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		・対象となる「祭り」の開催時に、「かきつばた園」までの観光シャトルバスを運行する社会実験を実施したほか、主要施設となる「かきつばた園」や「知立公園」を対象に、安全なルートで案内誘導するための看板設置、多目的トイレの設置、駐車場の整備等を施し、来訪しやすい環境を創出した。その結果、主要施設への来訪者が増加し、観光ガイドツアーの参加者数の増加に繋がったと考えられる。今年、観光ガイドの際に配布を予定しているほか、商業施設やサービスエリア等の市内外の集客施設での配布を予定している散策マップも完成することから、更なる受入環境の向上が考えられる。				
		・才兼池公園の新設を含めた公園・緑地整備を進めたことにより、地区内の公園面積が増加し、地区内人口が想定内の微増にとどまったことから、1人当たりの公園面積が増加した。				
II 定量的指標の達成状況		指標①（観光ガイドツアーの参加者数）	最終目標値	1,490人	目標値と実績値に差が出た要因	—
			最終実績値	1,670人		
		指標②（地区内の1人当たりの公園面積）	最終目標値	3.3㎡/人	目標値と実績値に差が出た要因	—
			最終実績値	3.4㎡/人		
		指標③（交通事故件数）	最終目標値	109件/年	目標値と実績値に差が出た要因	—
			最終実績値	98件/年		
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 （必要に応じて記述）		・整備した案内誘導施設や関連事業で施設整備を施した「知立公園」などがルート上に位置する「東海道宿場町散歩みち」が、交付対象期間内に『新日本歩く道紀行100選文化の道』に選定されるなど、知立市を代表する観光ルートとして認知が進みつつある。				
3. 特記事項（今後の方針等）						
（まちの課題の変化） ○国道1号から八橋かきつばた園までの観光ルートへの案内誘導施設（情報板）の設置や、観光ルート上の歩道未設置区間へのカラー舗装化などにより回遊性や安全性の向上が図られたほか、観光シャトルバスの社会実験の実施により交通利便性が向上した。 ○才兼池公園の新設および地区内の公園・緑地整備により公園面積が増加したほか、知立公園において多目的トイレや駐車場が整備され、利便性向上が図られた。 ○市道八橋町109号線（（都）花園八橋線）の整備が進められることで、流入交通等の円滑化が図られる。 ○牛田町20号線などの地区内道路の交差点部や歩道未設置区間において、カラー舗装化等の交通安全対策を実施したことで歩行者等への安全な交通環境が確保された。						
（今後のまちづくりの方策） ■観光客に対する受入環境の充実に向け、観光資源の由来などが来訪者に伝わりやすくなるPR手法を検討するとともに、安全なまち歩き環境の維持・充実を図る。 ■来訪者の満足度向上に向け、地域に点在する観光資源の魅力を高めるため、効果的な施設整備を行う。 ■公園の利用者に対し、継続的に憩いと利便性を提供できるよう、整備した公園の適切な維持管理及び、既存施設の利便性の向上を図る。 ■安全な歩行空間の確保に向け、危険箇所等に関する継続的な情報収集に努めるとともに、対象箇所に対する安全対策を検討する。 ■才兼池公園の整備等により、1人当たりの公園面積は増加したものの、県平均と比べ少ない状況であることから、今後も適切な箇所への公園整備を検討する必要がある。 ■地区内での流入交通等のさらなる円滑化に向け、八橋周辺の交通ネットワークの構築を図る。						

(参考図面) 市街地整備

